



*Linking your dreams*  
リンテック株式会社

**Creating the Future with Adhesive Technologies**

**Linkage + Technology**

**LINTEC**

**夢をカタチにする粘着技術のリンテック**

# 会社概要

- **本 社** 東京都板橋区
- **証券コード** 7966(東証1部)
- **設 立** 1934年(昭和9年) 10月15日
- **資本金** 233億円(21年3月末)
- **従業員数** 4,913人(21年3月末):連結
- **売上高** 2,359億円(21年3月期):連結
- **決算日** 3月31日
- **事業内容** 粘着製品、粘着関連機器、特殊紙、  
剥離紙・剥離フィルムなどの開発・製造・販売
- **事業拠点** 国内連結子会社: 3社  
海外連結子会社:39社



**1934年**  
(昭和 9年)

**ガムテープメーカー「不二紙工株式会社」  
設立(東京・板橋)** ※1984年 FSK株式会社に商号変更



**1960年**  
(昭和35年)

**ラベル用粘着紙・粘着フィルムの  
製造・販売を開始**

以降、二輪・自動車、屋外装飾関連などの  
工業分野に粘着事業を拡大

**1986年**  
(昭和61年)

**UV硬化型ダイシングテープを開発し、  
半導体関連分野に本格参入**



**1987年**  
(昭和62年)

**マディコ社(米国)を買収**

**1990年**  
(平成 2年)

**四国製紙、創研化工と3社合併  
「リントック株式会社」に商号変更**

特殊紙、剥離紙・剥離フィルムから粘着紙・  
粘着フィルム、関連機器分野にまで業容を拡大



**1991年**  
(平成 3年)

**光学ディスプレイ関連分野に本格参入**

**1994年** リンテック・インドネシア社を設立  
(平成 6年)

**2000年** リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社を設立  
(平成12年)

**2002年** 琳得科(蘇州)科技有限公司を設立  
(平成14年)

リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ(韓国)社を設立

**2003年** リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ(台湾)社を設立  
(平成15年)

**2004年** リンテック・コリア社を設立  
(平成16年)

**2011年** リンテック・タイランド社を設立  
(平成23年)

**2016年** マックタック・アメリカ社を買収  
(平成28年)

**2021年** デュラマーク社(米国)を買収  
(令和 3年)



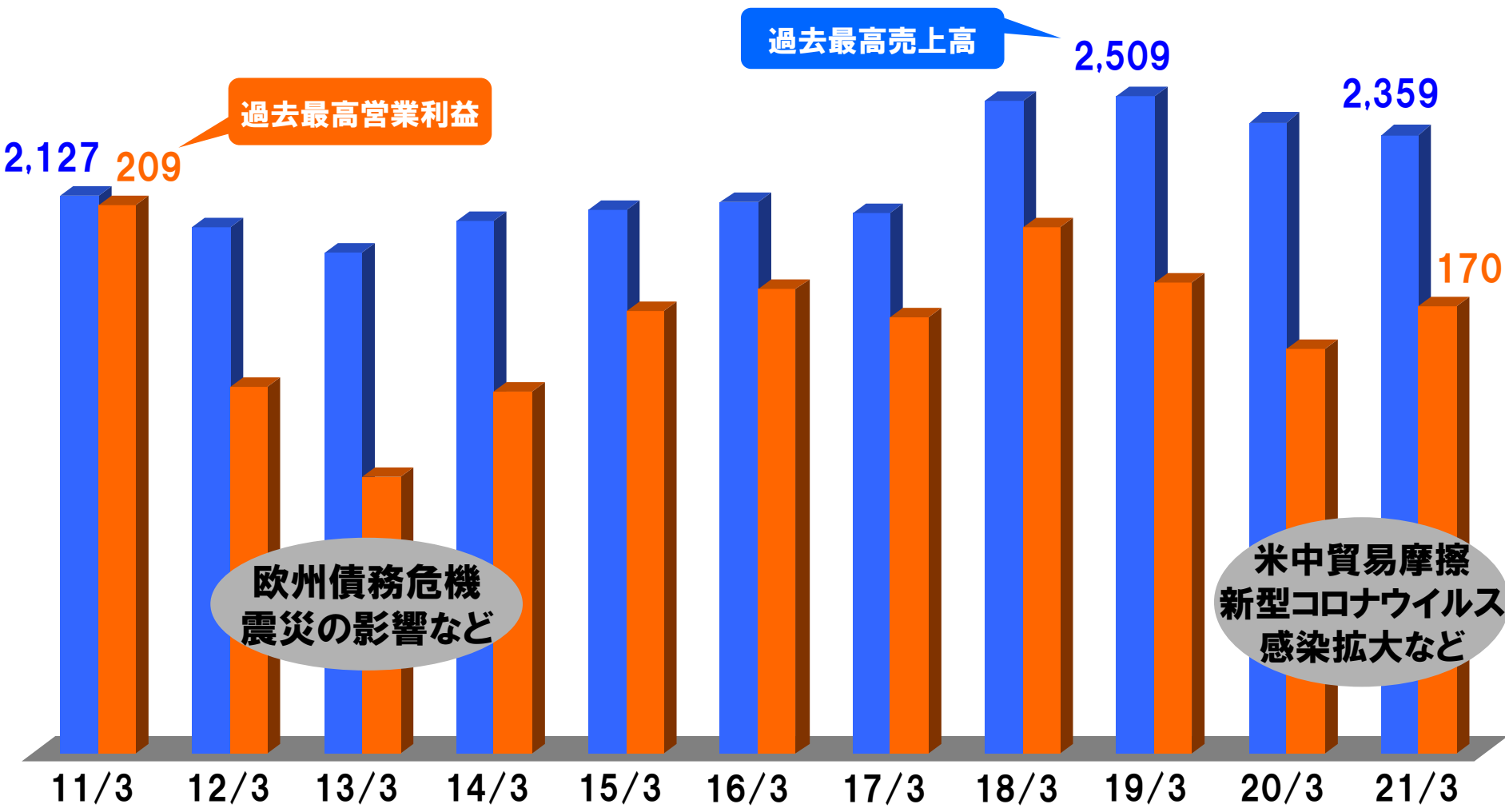
琳得科(蘇州)科技有限公司



マックタック・アメリカ社

# 業績推移／売上高、営業利益

単位：億円 ■ 売上高 ■ 営業利益



過去最高営業利益

過去最高売上高

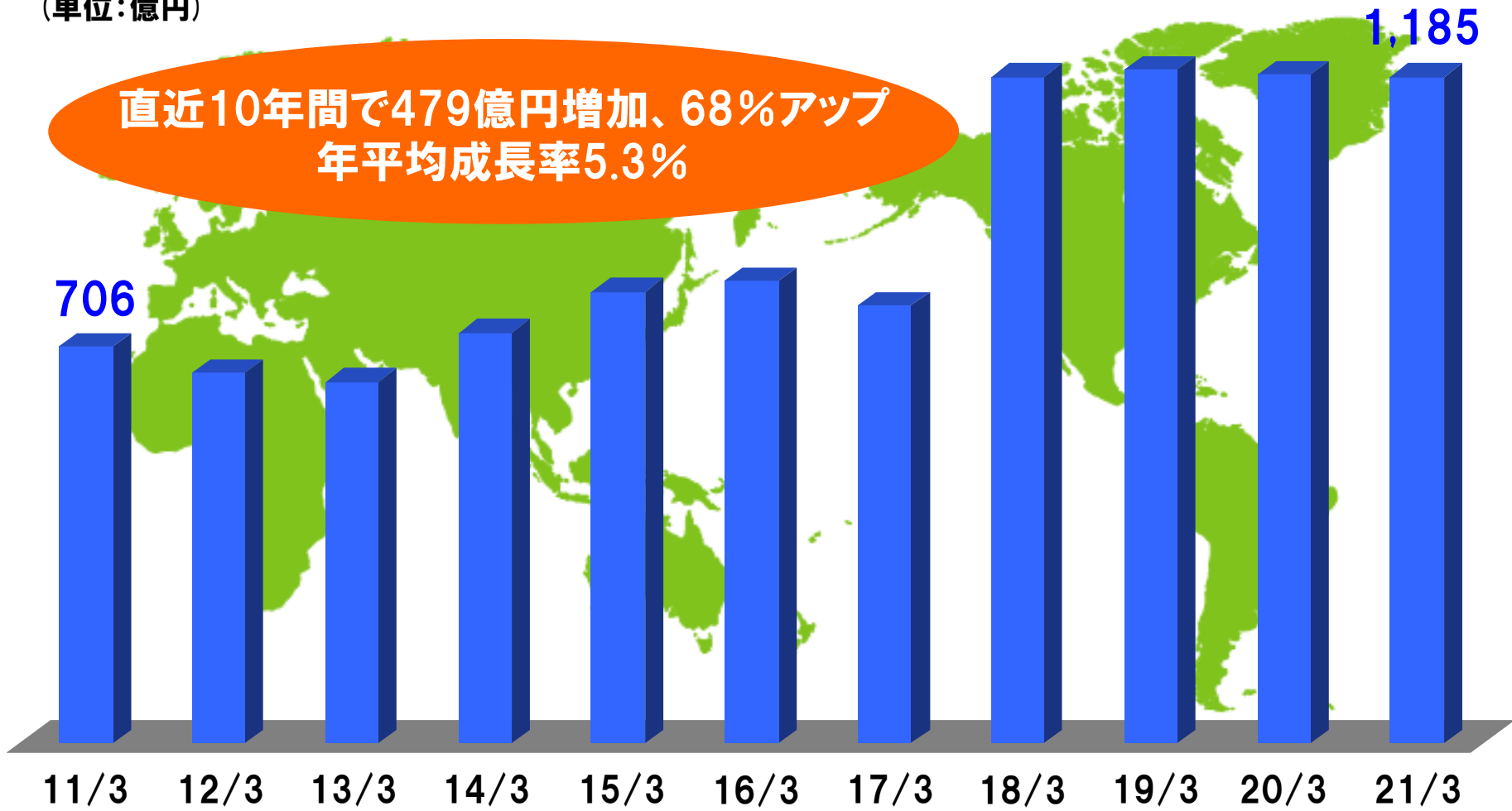
欧州債務危機  
震災の影響など

米中貿易摩擦  
新型コロナウイルス  
感染拡大など

# 業績推移／海外売上高

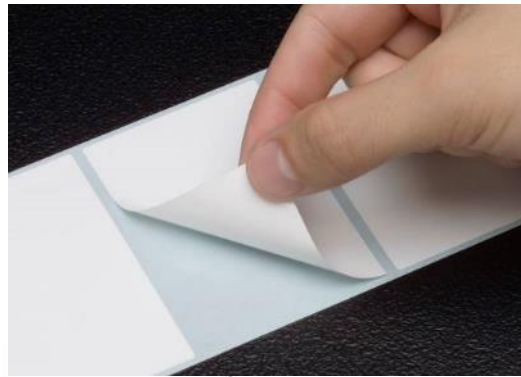
(単位:億円)

直近10年間で479億円増加、68%アップ  
年平均成長率5.3%





# 粘着製品の基本構成



## ① 表面基材（紙・フィルム）

- 表面加工  
印刷・印字適性、耐久性など



## ② 粘着剤

## ③ 剥離紙・剥離フィルム

トータルに自社技術で対応

# 四つの基盤技術と事業セグメント

## 基盤技術

1

粘着応用技術

2

表面改質技術

3

システム化技術

4

特殊紙・剥離材製造技術

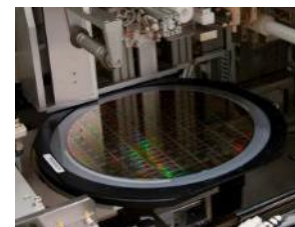
## 印刷材・産業工材関連

- 印刷・情報材事業部門
- 産業工材事業部門



## 電子・光学関連

- アドバンスドマテリアルズ事業部門
- オプティカル材事業部門

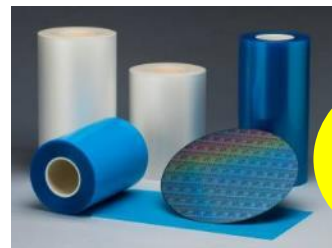


## 洋紙・加工材関連

- 洋紙事業部門
- 加工材事業部門



粘着製品  
+  
関連機器

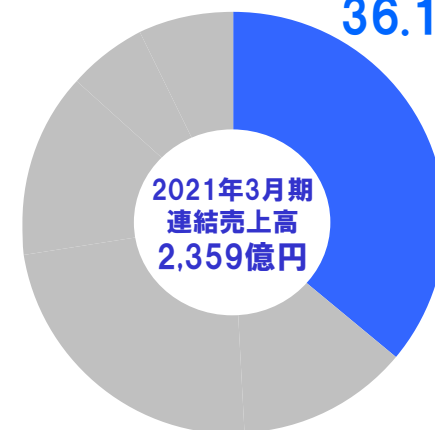




## ●ラベル用粘着紙・粘着フィルム

- 粘着剤によって、永久接着タイプ・再剥離タイプ・再貼付タイプに分けられる
- 印刷・印字適性、耐久性、耐熱性、耐水性、低温適性、曲面貼付性、寸法安定性、意匠性などに優れ、さまざまな用途や使用環境に対応

当事業部門売上高  
850億円  
36.1%



## ■ラベル用粘着紙・粘着フィルムの用途／主な要求性能



## ●食品・飲料関連

- ・耐水性
- ・曲面貼付性
- ・低温適性 など



## ●日用品関連

- ・耐水性
- ・曲面貼付性
- ・意匠性 など



## ●家電関連

- ・耐久性
- ・耐熱性
- ・ガス透過性 など



## ●自動車関連

- ・耐油・耐水性
- ・耐久性
- ・耐熱性 など



## ●医療・医薬関連

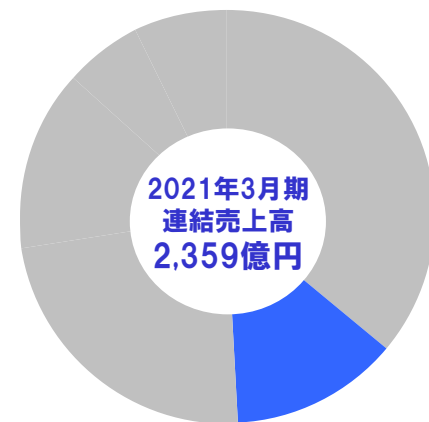
- ・印刷・印字適性
- ・耐薬品性
- ・改ざん防止機能 など



## ●流通・通販関連

- ・印字適性
- ・捺印適性
- ・低温適性 など

- ウィンドーフィルム
- 屋外看板・広告用フィルム
- 内装用化粧フィルム
- 自動車用粘着製品
- 工業用粘着テープ
- ラベリングマシン など



当事業部門売上高  
307億円  
13.0%



## ● 自動車用粘着製品

### ● ドアサッシ用塗装代替フィルム ▶▶▶

独自の材料設計によって、  
空気を抜けやすくし、貼付を容易に



空気の入った状態



空気のない状態

### ● アルミホイール用保護フィルム



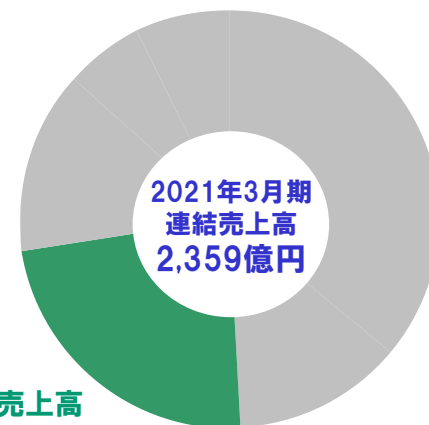
### ● マーキングフィルム

### ● ウィンドーフィルム

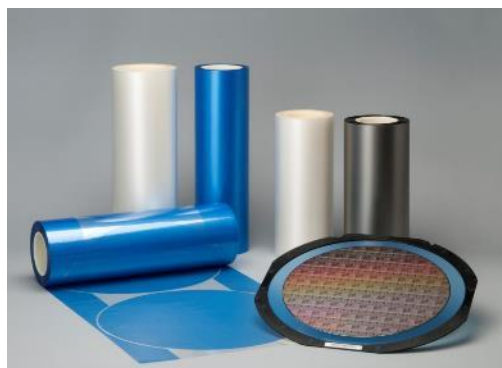




- 半導体関連粘着テープ
- 半導体関連装置
- 積層セラミックコンデンサ関連テープ など



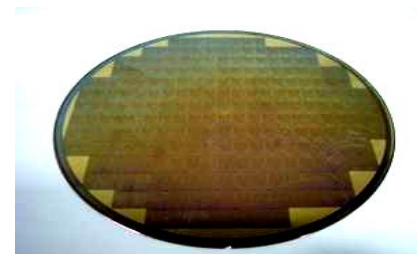
当事業部門売上高  
553億円  
23.4%



## 半導体の製造工程

### 【前工程】

単結晶シリコン  
インゴット

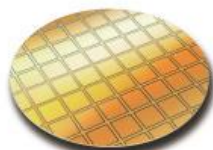


ウェハ

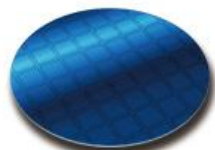
回路形成ウェハ

### 【後工程】

※当社テープ・装置を使用



回路形成  
ウェハ



表面保護  
テープ貼付



裏面研削  
(薄型化)



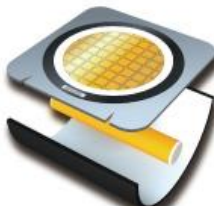
ダイシング  
テープ貼付



表面保護  
テープ剥離



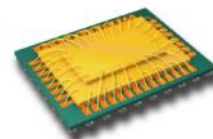
ダイシング  
(ウェハ切断)



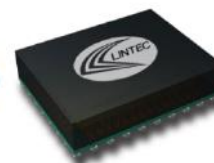
テープへの  
紫外線照射



ピックアップ



実装・積層



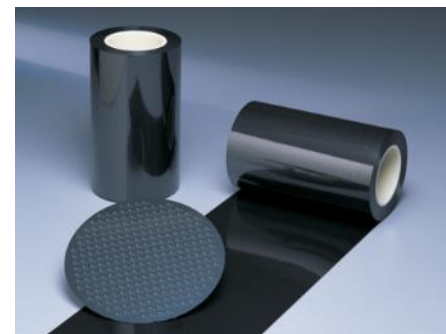
樹脂封止



## ● 半導体関連粘着テープ／注力製品

### ● フリップチップ裏面保護テープ

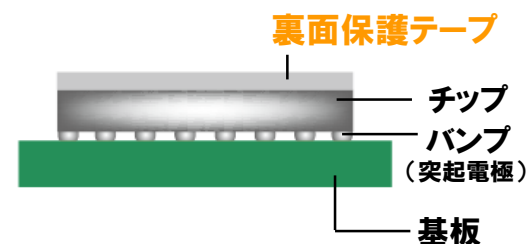
- ・回路面に bumps を形成し、基板に接続するフリップチップの裏面を保護・補強するテープ



#### 【主な特徴】

- ・回路面への光透過を抑制し、回路面への悪影響を低減
- ・液状モールド剤のコーティングと異なり、厚みの均一性に優れ、作業工程を簡略化
- ・比較的低温での貼付が可能のため、熱による回路へのダメージを低減。当社貼付装置と組み合わせることで、より信頼性の高い製造ラインの構築に寄与
- ・ダイシングテープ一体型や赤外線透過するタイプもラインアップ

#### ■ フリップチップ実装



## ● 半導体関連粘着テープ／注力製品

### ● SDBG用ウェハ表面保護テープ

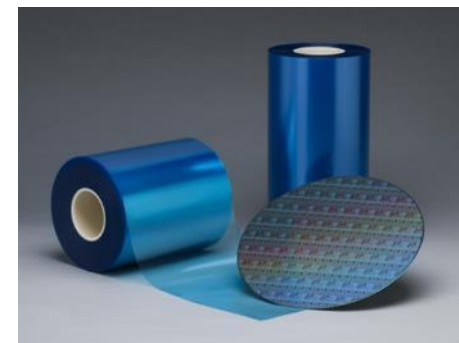
- ・SDBGプロセス\*でウェハの裏面を研削する際に回路面を保護するテープ

\* SDBGは Stealth Dicing Before Grinding の略で、レーザーでウェハの内部に亀裂を形成したあと、裏面研削を行うプロセス技術。ブレードを使ったプロセスと比べ、1枚のウェハから取れるチップの個数が多く、強度の高いチップの生産が可能

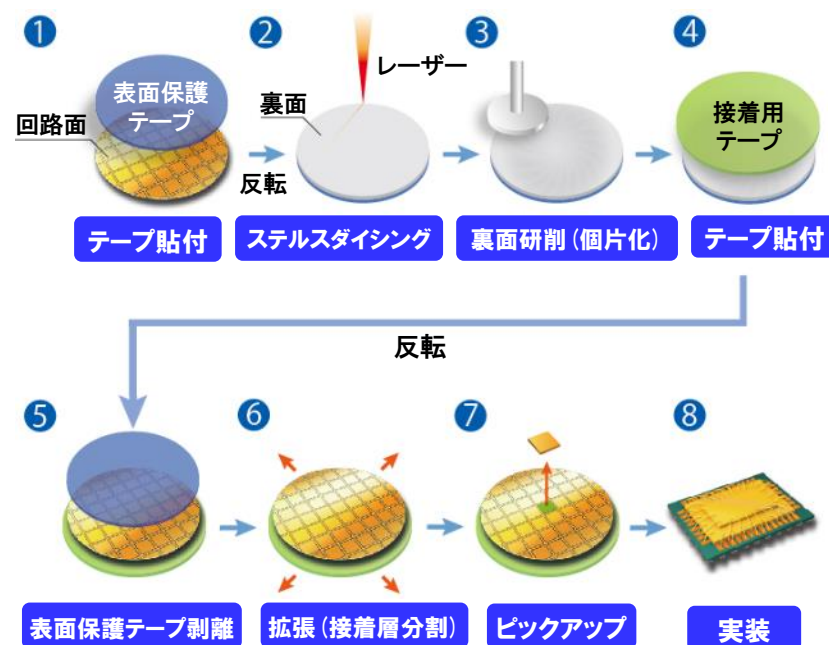
※ ステルスダイシングは浜松ホトニクス(株)が開発したレーザーダイシング技術です

#### 【主な特徴】

- ・高い粘着力でチップの飛散や研削水の浸入を防止
- ・裏面研削時のチップ破損を抑制
- ・厚さ30 μm以下のチップの製造にも対応

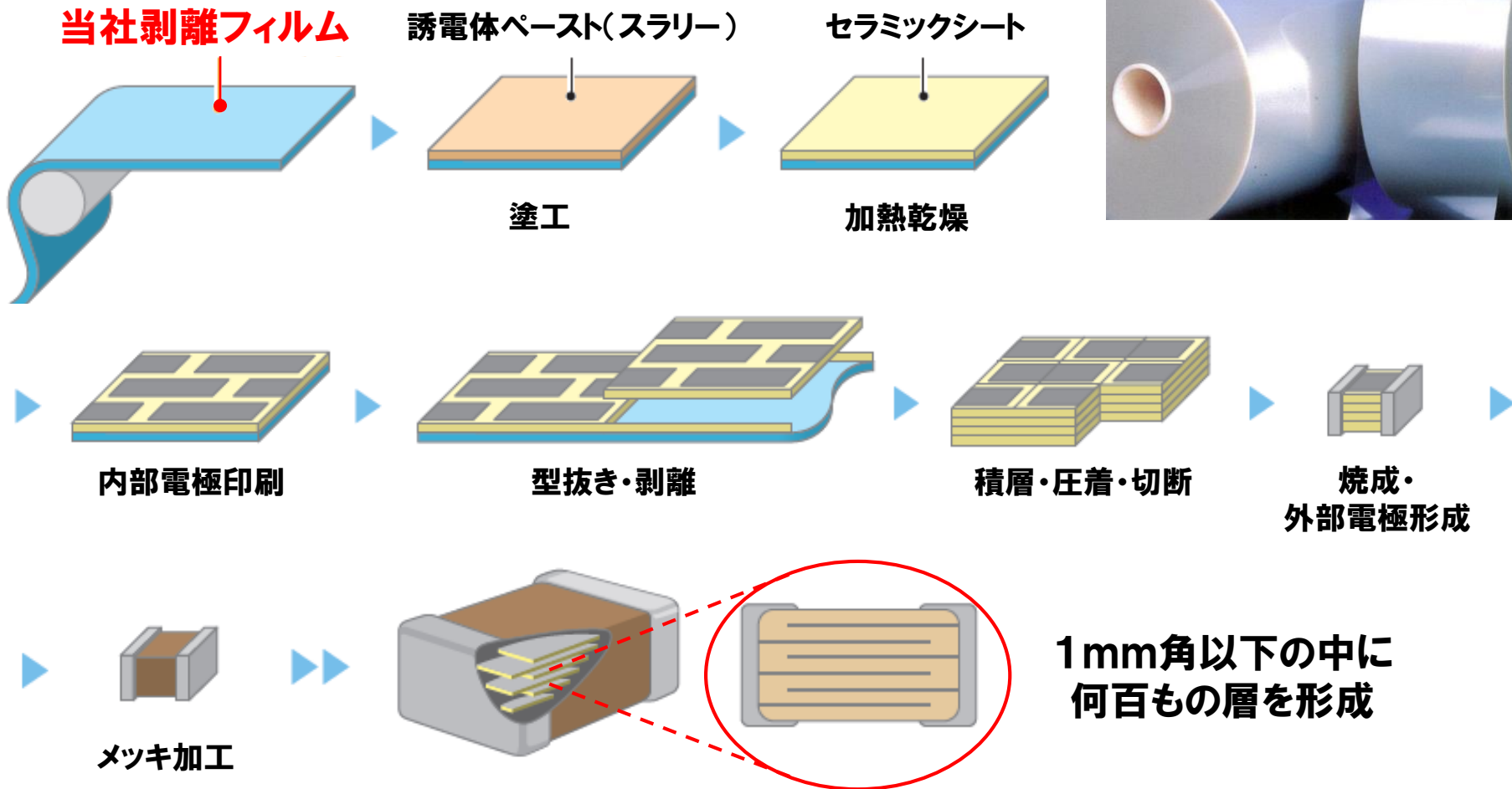


#### ■ SDBGを使用した半導体製造プロセス



● 積層セラミックコンデンサ関連テープ

■ 積層セラミックコンデンサの製造工程



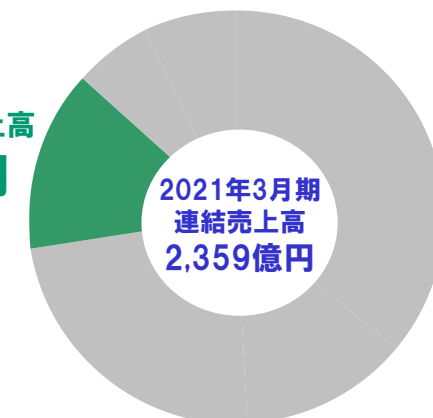
## ● 光学ディスプレイ関連粘着製品

● 偏光フィルム / 粘着加工

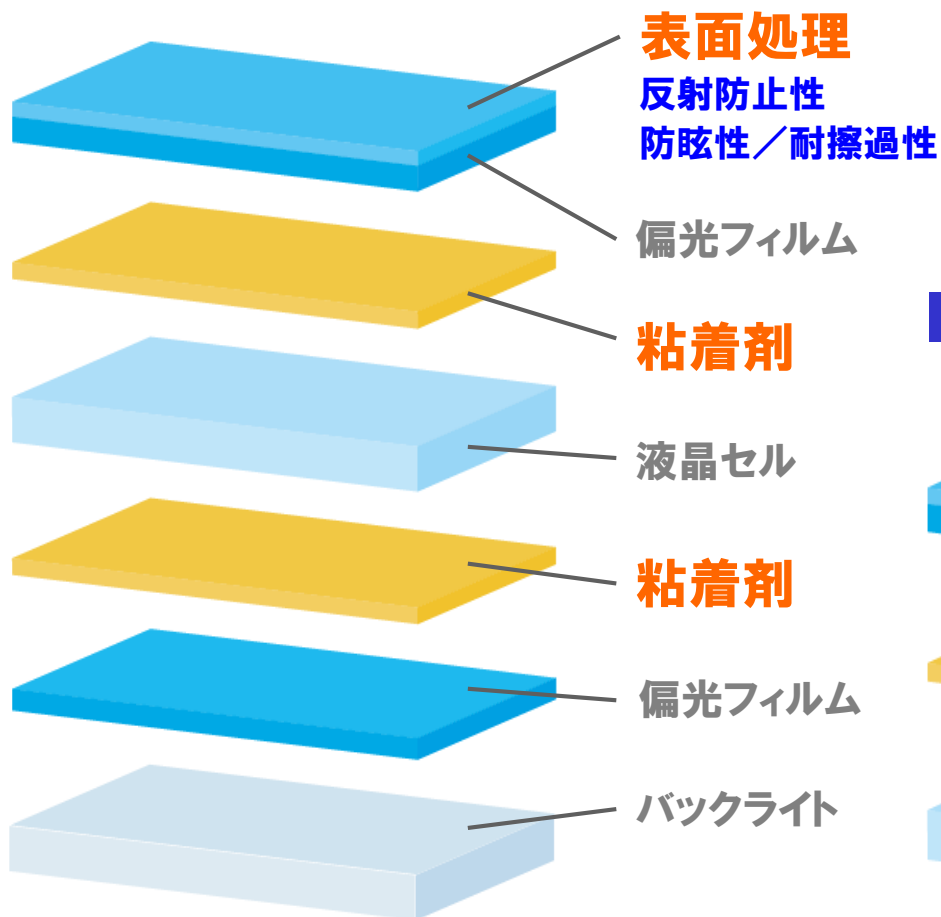
● タッチパネル関連製品 など

当事業部門売上高  
337億円  
14.3%

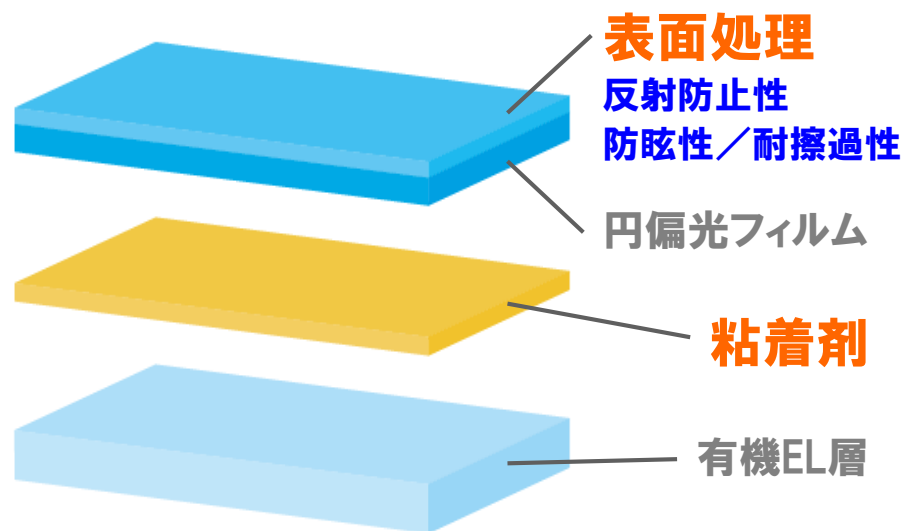
2021年3月期  
連結売上高  
2,359億円



## ■液晶ディスプレイの構成



## ■OLEDディスプレイの構成



## ● タッチパネル関連製品／注力製品

### ● 車載用光学粘着シート

- ・車載用タッチパネルの貼合に使用される  
高機能光学両面粘着シート

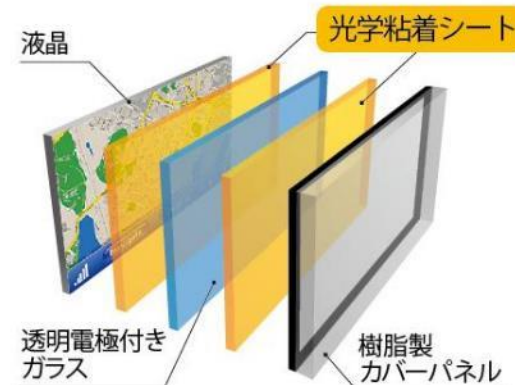
#### 【主な特徴】

- ・車載用途で求められる厳しい耐久性基準をクリア
- ・プラスチック樹脂から発散されるアウトガスを抑制

### ● 光拡散フィルム

- ・入射した光を必要な方向へ効率良く、最適に拡散させる光学機能性フィルム
- ・バックライトを使わない反射型ディスプレイにおいて、従来よりも明るい画面表示を実現

#### ■ 車載用タッチパネルの構成図



#### ■ 光拡散フィルムの採用事例



スマートウォッチ

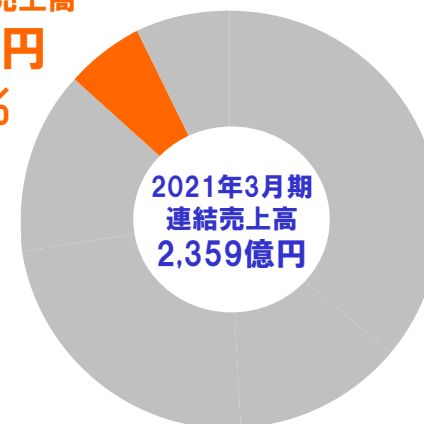


自転車用GPSナビ



- カラー封筒用紙
- 色画用紙
- 特殊機能紙(耐油耐水紙、無塵紙など)
- 高級印刷用紙
- 高級紙製品用紙 など

当事業部門売上高  
144億円  
6.1%



- 粘着製品用剥離紙
- 電子材料用剥離紙
- 光学関連製品用剥離フィルム
- 合成皮革用工程紙 (剥離紙)
- 炭素繊維複合材料用工程紙 (剥離紙) など

当事業部門売上高

167億円

7.1%



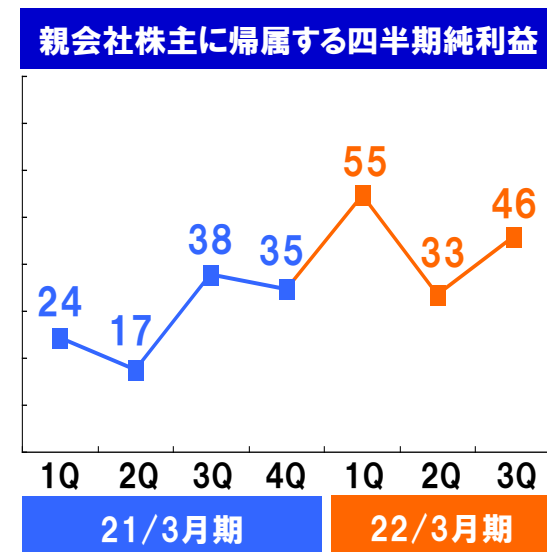
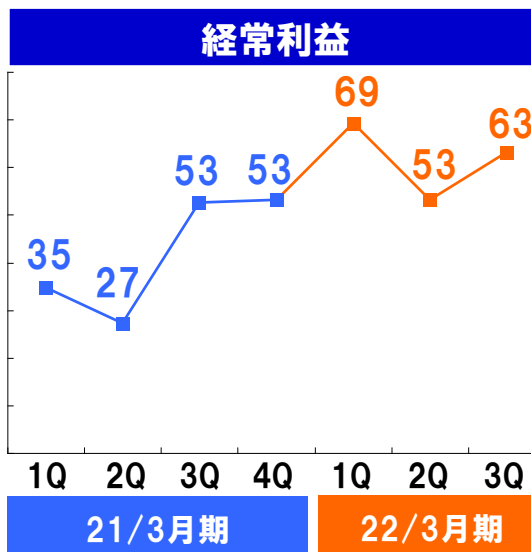
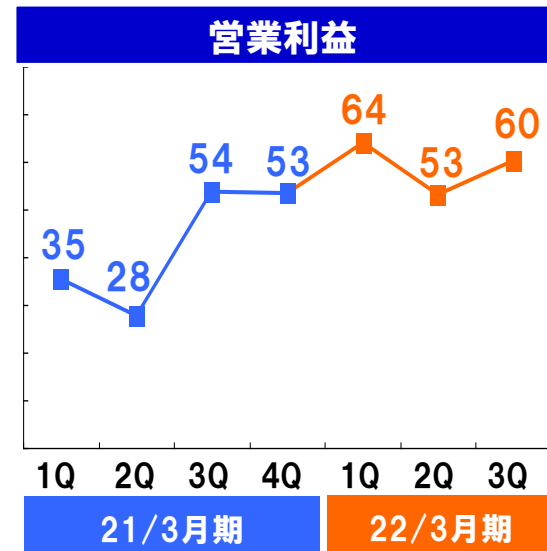
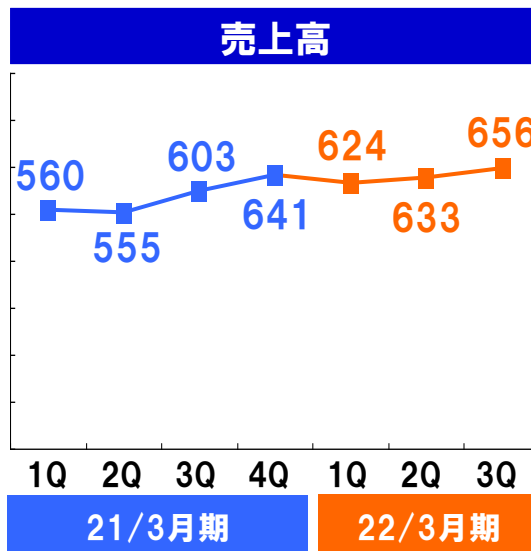
# 2022年3月期第3四半期 連結業績

(単位:億円)

	22/3月期 3Q実績	21/3月期 3Q実績	増減 (増減率)
売上高	1,912	1,718	195 (11.3%)
営業利益	178	117	61 (51.9%)
経常利益	186	115	71 (62.0%)
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	134	79	54 (68.5%)

※2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、2022年3月期の実績は当該会計基準等適用後の数値となっております。

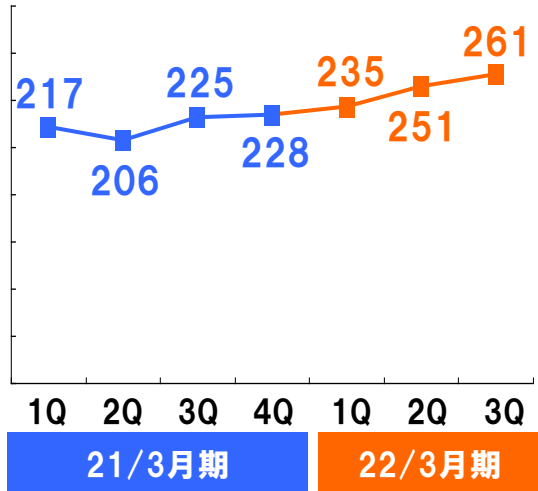
(単位:億円)



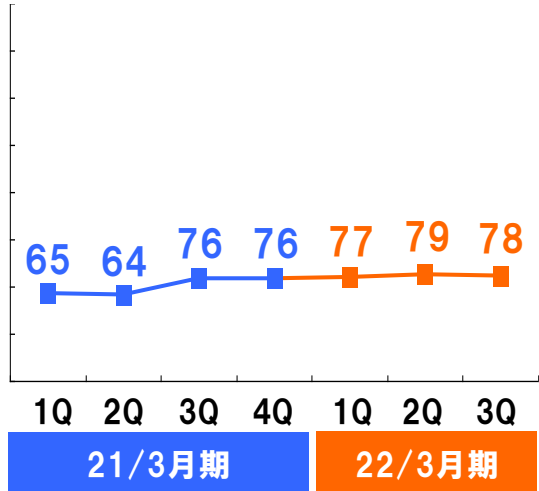
(単位:億円)

	(単位:億円)		
印刷材・ 産業工材 関連	22/3月期 3Q実績	21/3月期 3Q実績	増減 (増減率)
印刷・情報材 事業部門	748	647	100 (15.5%)
産業工材 事業部門	234	206	28 (13.6%)
セグメント 売上高	981	853	128 (15.0%)
セグメント 営業利益	13	▲ 5	18 (-%)

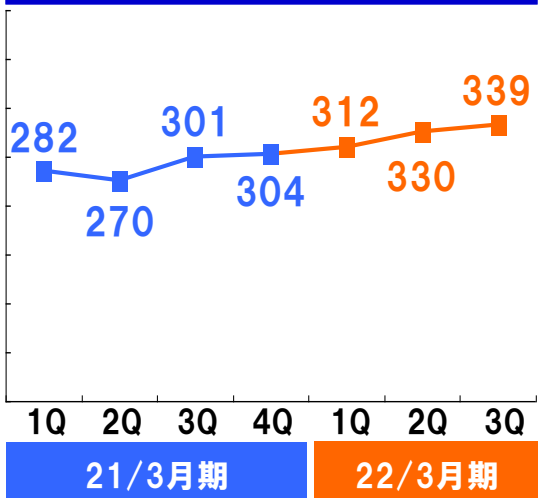
印刷・情報材事業部門 売上高



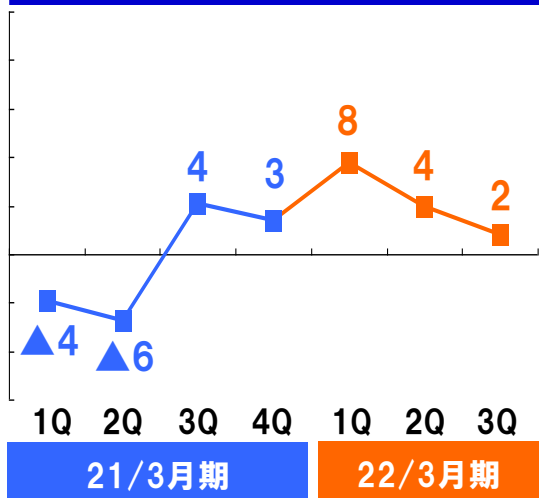
産業工材事業部門 売上高



セグメント売上高



セグメント営業利益



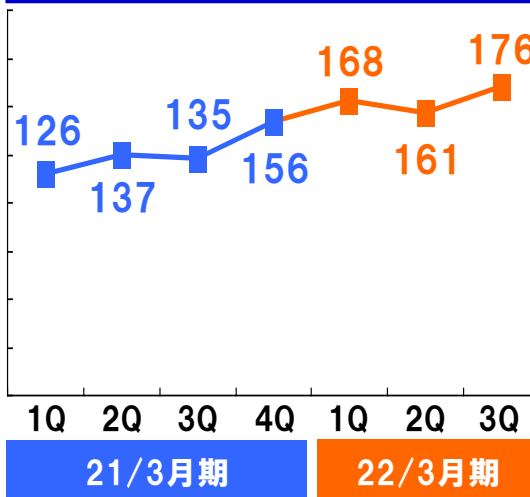
※2022年3月期の期首よりマックタック・アメリカ社の産業工材事業部門に関わる全ての製品を印刷・情報材事業部門へ移管しました。2021年3月期の実績は組み替えて記載しております。

# 電子・光学関連

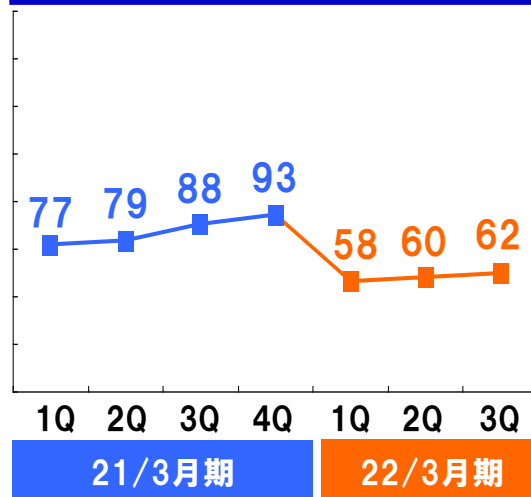
(単位:億円)

	(単位:億円)		
電子・光学 関連	22/3月期 3Q実績	21/3月期 3Q実績	増減 (増減率)
アドバンス マテリアルズ 事業部門	505	397	108 (27.2%)
オプティカル材 事業部門	180	244	▲64 (▲26.2%)
セグメント 売上高	685	641	44 (6.9%)
セグメント 営業利益	153	109	44 (39.8%)

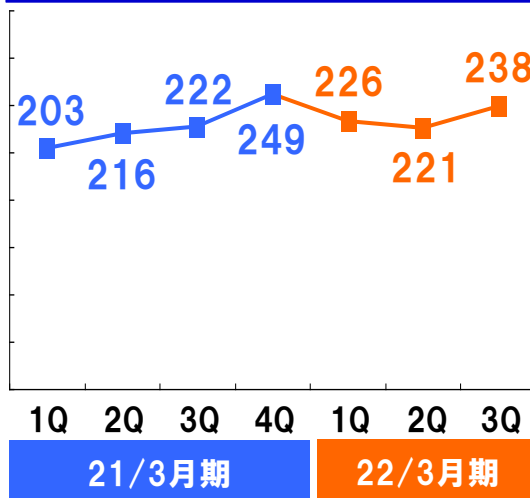
アドバンスマテリアルズ事業部門 売上高



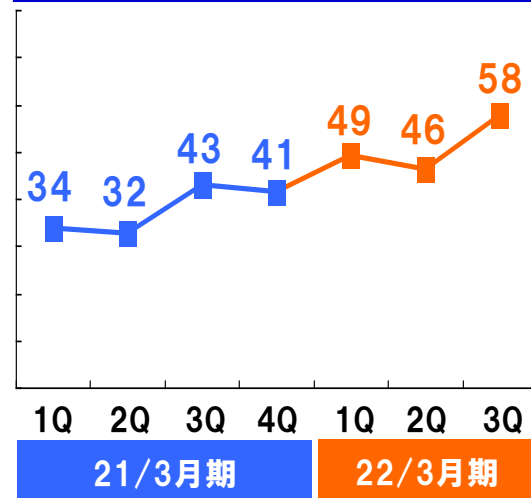
オプティカル材事業部門 売上高



セグメント売上高



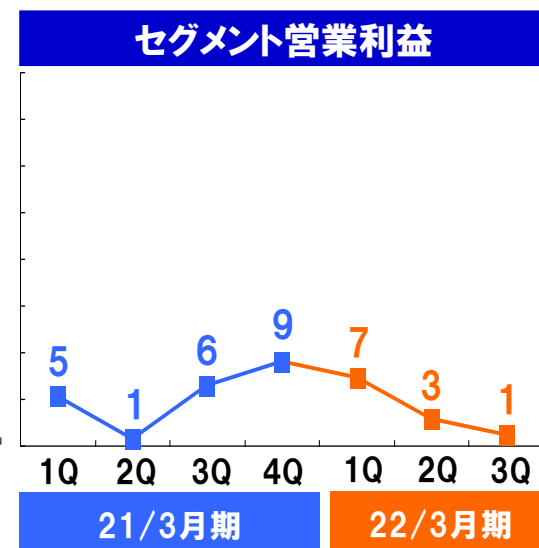
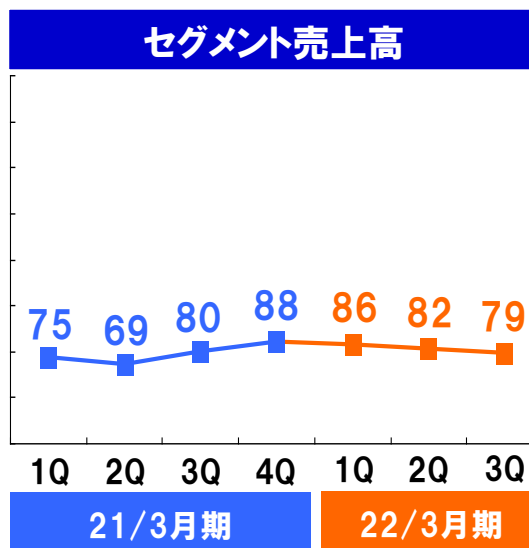
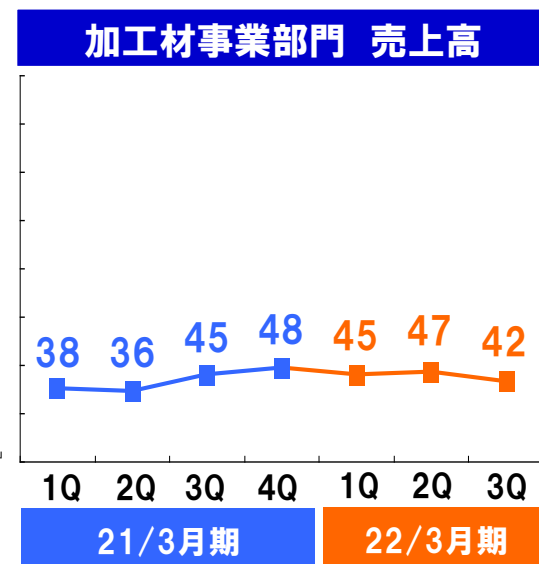
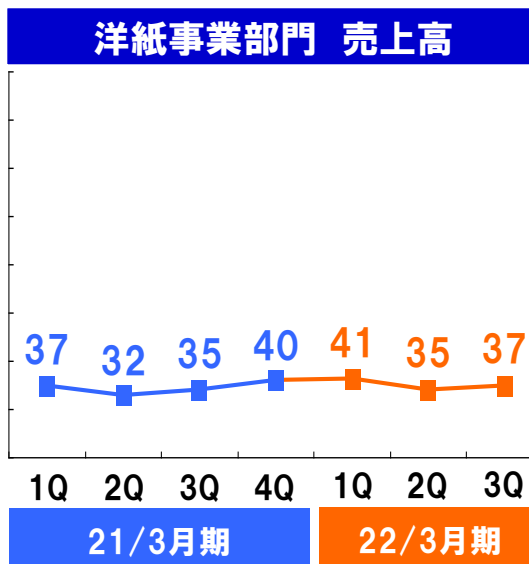
セグメント営業利益



※2022年3月期の期首より洋紙・加工材関連の一部製品を電子・光学関連へ移管しました。2021年3月期の実績は組み替えて記載しております。

(単位:億円)

	(単位:億円)		
洋紙・加工材 関連	22/3月期 3Q実績	21/3月期 3Q実績	増減 (増減率)
洋紙 事業部門	113	104	8 (7.9%)
加工材 事業部門	133	119	14 (12.0%)
セグメント 売上高	246	223	23 (10.1%)
セグメント 営業利益	11	12	▲1 (▲9.3%)



※2022年3月期の期首より洋紙・加工材関連の一部製品を電子・光学関連へ移管しました。2021年3月期の実績は組み替えて記載しております。

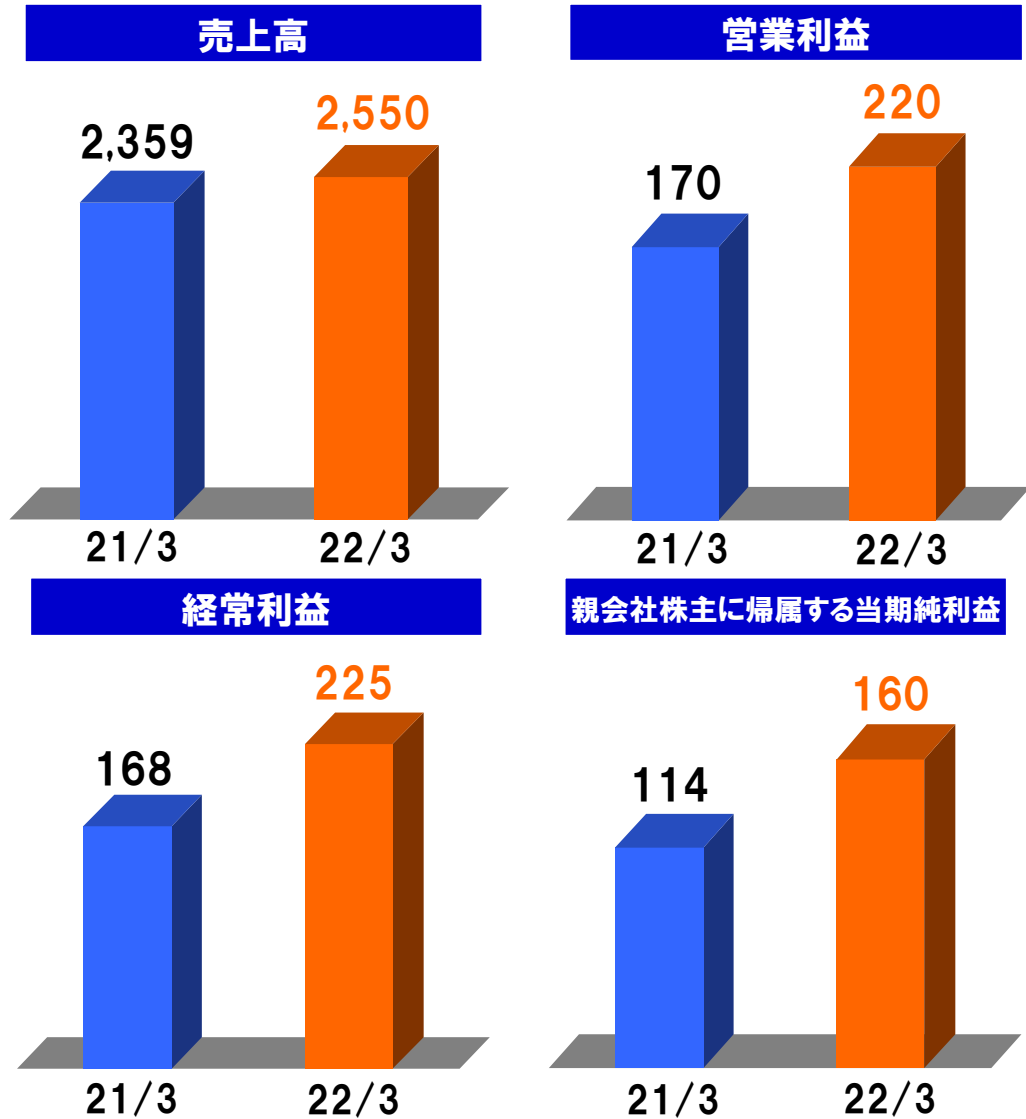


# 2022年3月期通期 連結業績の見通し

(単位:億円)

	22/3月期 通期予想	21/3月期 通期実績	増減 (増減率)
売上高	2,550	2,359	191 (8.1%)
営業利益	220	170	50 (29.2%)
経常利益	225	168	57 (34.2%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	160	114	46 (40.3%)

単位:億円 ■ 実績 ■ 予想



※2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しています。2022年3月期の予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっており、増減および増減率は参考値として記載しております。

# 2022年3月期通期 セグメント別売上高/営業利益の見通し

(単位:億円)				(単位:億円)				(単位:億円)			
印刷材・ 産業工材 関連	22/3 通期 予想	21/3 通期 実績	増減 (増減率)	電子・光学 関連	22/3 通期 予想	21/3 通期 実績	増減 (増減率)	洋紙・加工材 関連	22/3 通期 予想	21/3 通期 実績	増減 (増減率)
印刷・情報材 事業部門 売上高	1,006	875	131 (14.9%)	アドバンス マテリアルズ 事業部門 売上高	676	553	123 (22.3%)	洋紙 事業部門 売上高	150	144	6 (3.9%)
産業工材 事業部門 売上高	307	282	25 (8.8%)	オプティカル材 事業部門 売上高	239	337	▲98 (▲29.0%)	加工材 事業部門 売上高	172	167	5 (2.8%)
セグメント 売上高	1,313	1,157	156 (13.4%)	セグメント 売上高	915	890	25 (2.8%)	セグメント 売上高	322	312	10 (3.3%)
セグメント 営業利益	16	▲2	18 (-%)	セグメント 営業利益	194	151	43 (28.8%)	セグメント 営業利益	10	21	▲11 (▲53.2%)

※2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しています。2022年3月期の予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっており、増減および増減率は参考値として記載しております。

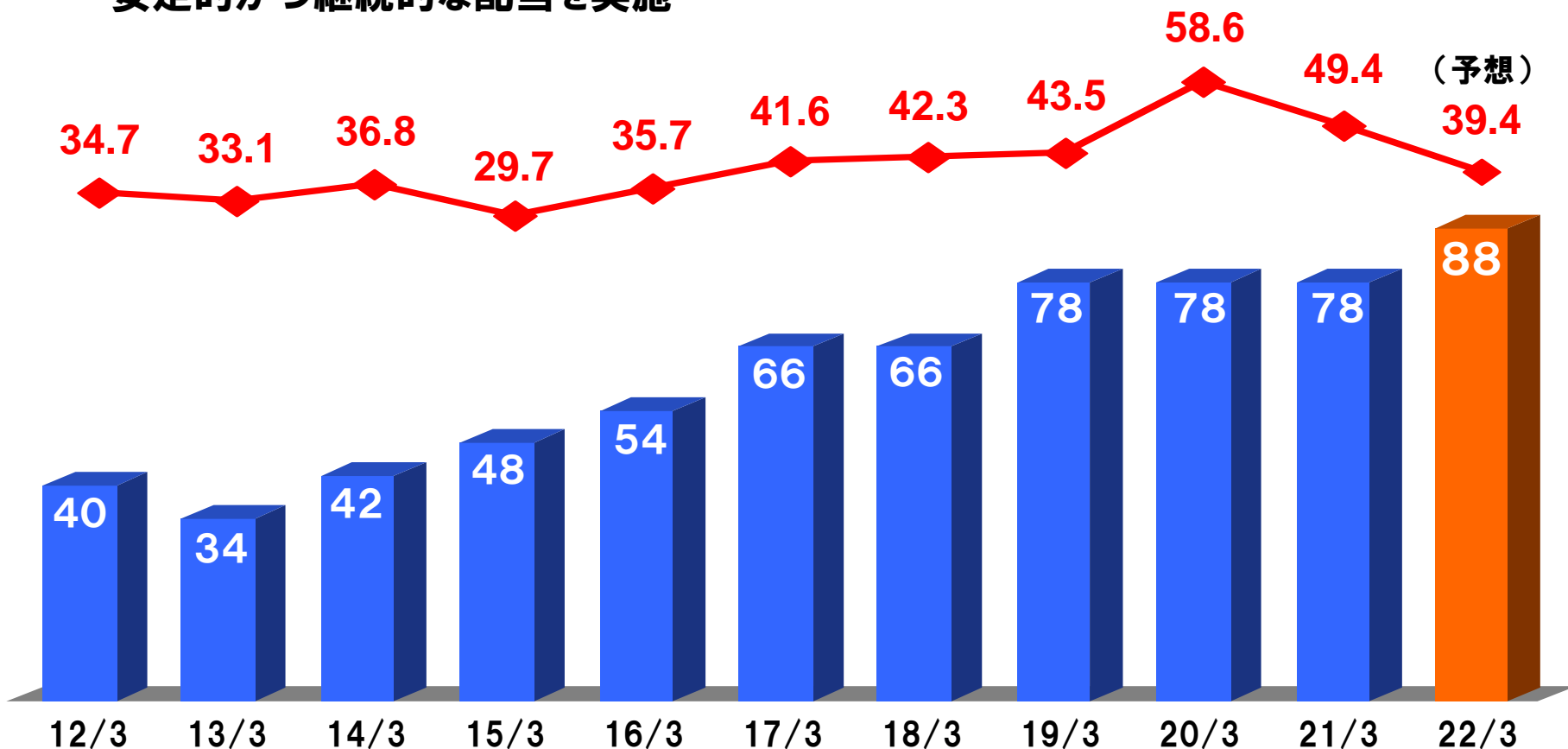
※2022年3月期の期首よりマックタック・アメリカ社の産業工材事業部門に関わる全ての製品を印刷・情報材事業部門へ、洋紙・加工材関連の一部製品を電子・光学関連へ移管しました。2021年3月期の実績は組み替えて記載しております。

## ● 1株当たり配当金推移 (円)

■ 実績 ■ 見通し ◆ 配当性向 (%)

### ● 利益配分の基本方針

経営基盤の強化を図りつつ、各事業年度の連結業績を勘案し、  
安定的かつ継続的な配当を実施



## ● 目的

株主還元の充実および資本効率の向上を図るため

## ● 取得に係る事項

1. 取得対象株式の種類 : 当社普通株式
2. 取得し得る株式の総数 : 400万株(上限)
3. 株式の取得価額の総額 : 120億円(上限)
4. 取得期間 : 2021年11月9日～2022年8月31日



**名 称** LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030 (略称:LSV 2030)

**期 間** 2021年4月～2030年3月

**基本方針** イノベーションによる企業体質の強靱化と持続的成長に向けた新製品・新事業の創出を通じて、サステナブルな社会の実現に貢献する

## 重点テーマ

1. 社会的課題の解決
2. イノベーションによる企業体質の強靱化
3. 持続的成長に向けた新製品・新事業の創出

2030年3月期 財務指標

売上高営業利益率

**12%以上**

ROE (自己資本当期純利益率)

**10%以上**



名 称

**LSV 2030 - Stage 1**

期 間

2021年4月～2024年3月

2024年3月期 (最終年度) 経営目標

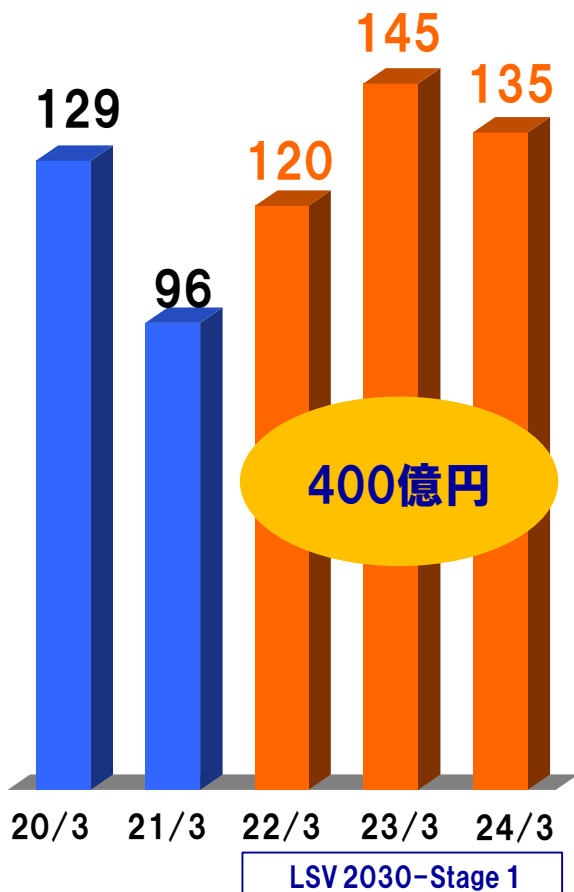
■売上高	2,550億円
■営業利益	210億円
■親会社株主に帰属する 当期純利益	140億円
■売上高営業利益率	8%以上
■ROE (自己資本当期純利益率)	7%以上



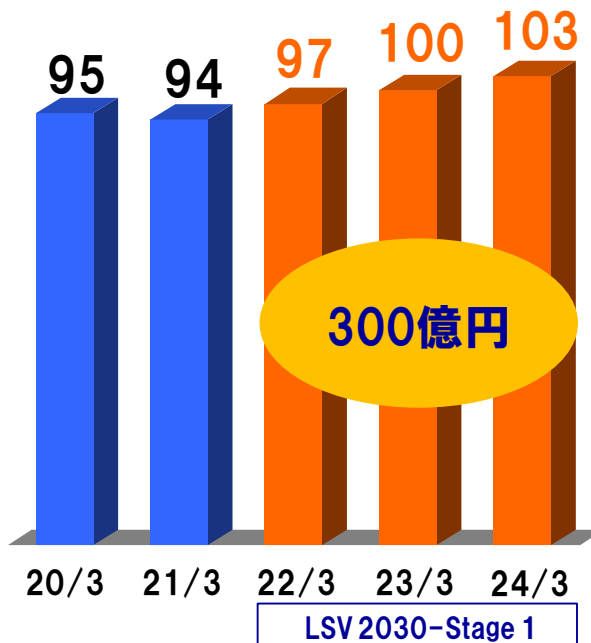
# 設備投資額・減価償却費・のれん償却額・研究開発費

単位:億円 ■実績 ■見通し

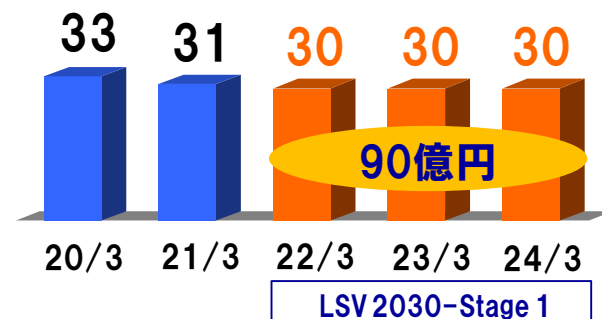
## 設備投資額



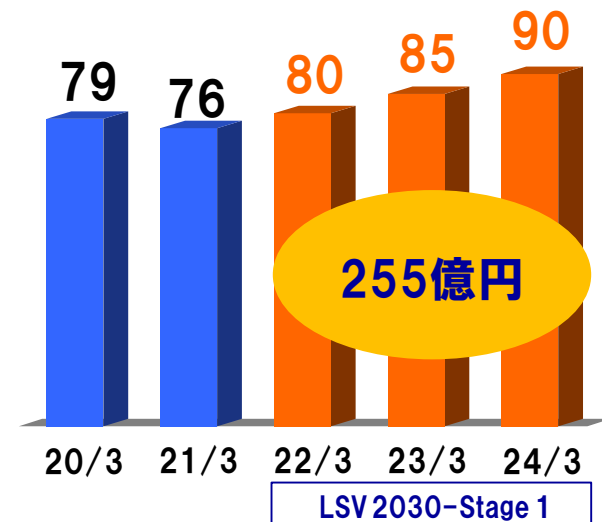
## 減価償却費



## のれん償却額



## 研究開発費



**本資料および当社製品などに関するお問い合わせ先**

**リンテック株式会社 広報・IR室**

**〒173-0001 東京都板橋区本町23-23**

**TEL.03-5248-7741**

**本資料に掲載されている業績見通しに関する内容につきましては、本資料の作成日現在において想定できる経済情勢、市場動向および計画などに基づき作成したものであり、その内容の正確性を保証したり、将来の計画数値、施策の実現を確約したりするものではありません。したがって、実際の業績は、今後のさまざまな要因によって異なる可能性があります。**